

栗原市



石尊神社  
火伏せ祭り



栗原市若柳武鎗わかやなぎむやりにある石尊せきそん神社の創建は宝徳年間と伝えられ、日本武尊やまとたけるのみことの御像が祀まつられています。これは、相模国さがみ（現・神奈川県伊勢原市）の大山あふりやま（雨降山）にある阿夫利神社あふりから勧請かんじょうしたものとされています。地域には御像に関する伝説がいくつもあり、それらは共通して御像が諸々の災難、特に大火から地域を守ってくれたと伝えられています。元治元年（1864）2月にお宮を建立して祀り、それ以降、旧暦2月12日を祭日として、祭礼と水冠りの祭りが連綿と続いてきました。

火伏せ祭りでは、腰藁こしわらを着けた下帯姿の厄男やくおとこたちが、厳しい寒さの中水をかぶり、家々に水をかけ、自分の厄払いみこしをしながら、各家の火伏せを祈願します。子ども神輿みこしや鶏舞やっしか、御神楽や八鹿踊りも出演します。現在は3月第2日曜日の例大祭に行われており、この頃から、寒さが和らぎ、春の気配を感じさせることから、県北へ春を呼ぶ祭りとされています。

